

2020 年度
講義概要(シラバス)
2 年生
3 年生

松江総合医療専門学校
作業療法士科

科目区分	教育内容	科目名		単位	学年	時期
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	精神医学		2	2	前期
担当教員	大竹 徹	実務経験	医師として、松江市立病院精神神経科他での臨床経験あり			
内 容	心の健康、疾病及び障害について、予防と回復過程の促進に関する知識を合わせて習得し、理解力、観察力及び判断力を養う。					
到達目標	① 疫学、予後について説明できる。 ② 病因、症候について説明できる。 ③ 評価、検査(画像・生理検査を含む)、診断について説明できる。 ④ リハビリテーション医療について説明できる。 ⑤ その他の治療(精神療法を含む)について説明できる。 ⑥ 精神障害の一般的疾患について説明できる。					
授業計画						
1	精神疾患(精神障害)概論					
2	精神疾患(精神障害)概論					
3	精神医療と法律1					
4	精神医療と法律2					
5	精神医療と法律3					
6	精神医療と法律4					
7	ストレスと疾患・心身症					
8	ストレスと疾患・ストレス関連障害					
9	症候論1					
10	症候論2					
11	症候論3					
12	症候論4					
13	統合失調症					
14	感情障害					
15	心因反応					
16	神経症性障害					
17	アルコール依存症、認知症					
18	発達障害 他					
教科書 参考書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版 上野 武治 編集 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 臨床心理学 町沢 静夫 執筆 プリント配布					
授業方法	講義					
使用機材	パソコン、プロジェクター					
成績評価	定期試験、出席などの総合評価					
留意点						

科目区分	教育内容	科目名		単位	学年	時期
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	整形外科学 I (総論)		2	2	前期
担当教員	陶山 幸弘	実務経験	作業療法士として身体障害分野での臨床経験あり			
内 容	整形外科診療全般を学習し、疾患の理解を深める。					
到達目標	① 疫学, 予後について説明できる。 ② 病因, 症候について説明できる。 ③ 評価, 検査(画像・生理検査を含む), 診断について説明できる。 ④ リハビリテーション医療について説明できる。 ⑤ その他の治療について説明できる。 ⑥ 骨関節障害の一般的疾患について説明できる。					
授業計画						
1	整形外科 基礎科学・概論					
2	整形外科 診断学					
3	整形外科 検査法					
4	整形外科 保存療法					
5	整形外科 観血療法					
6	外傷総論					
7	上肢・胸部外傷					
8	下肢外傷					
9	脊椎・脊髄損傷					
10	感染症					
11	手の外科と手の疾患					
12	骨系総疾患、代謝性疾患					
13	先天性疾患					
14	四肢切断・離断					
15	整形外科治療 I					
教科書 参考書	病気がみえる Vol.11 運動器・整形外科					
授業方法	授業用プリント配布/スライド					
使用機材	パソコン、プロジェクター					
成績評価	定期試験(70%)、小テスト(25%)、出席(5%)					
留意点						

科目区分	教育内容	科目名		単位	学年	時期
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	整形外科学Ⅱ(各論)		2	2	後期
担当教員	陶山 幸弘	実務経験	作業療法士として身体障害分野での臨床経験あり			
内 容	整形外科神陵全般を学習し、疾患の理解を深める。					
到達目標	① 疫学, 予後について説明できる。 ② 病因, 症候について説明できる。 ③ 評価, 検査(画像・生理検査を含む), 診断について説明できる。 ④ リハビリテーション医療について説明できる。 ⑤ その他の治療について説明できる。 ⑥ 骨関節障害の一般的疾患について説明できる。					
授業計画						
1	義肢・装具					
2	骨端症					
3	頸椎疾患					
4	腰椎疾患					
5	脊椎の変形・奇形・腫瘍					
6	股関節疾患					
7	膝関節疾患					
8	骨軟部腫瘍					
9	転移性骨腫瘍					
10	肩関節疾患					
11	スポーツ障害					
12	関節リウマチ					
13	末梢神経障害					
14	リハビリテーション					
15	整形外科治療Ⅱ					
教科書 参考書	病気がみえる Vol.11 運動器・整形外科					
授業方法	授業用プリント配布/スライド					
使用機材	パソコン、プロジェクター					
成績評価	定期試験(70%)、小テスト(25%)、出席(5%)					
留意点						

科目区分	教育内容	科目名		単位	学年	時期
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	神経内科学 I (総論)		2	2	前期
担当教員	小原 謙治	実務経験	身体障害分野での実務経験あり			
内 容	神経内科であつかう疾患、症状の理解 診断方法の習得					
到達目標	① 疫学, 予後について説明できる。 ② 病因, 症候について説明できる。 ③ 評価, 検査(画像・生理検査を含む), 診断について説明できる。 ④ リハビリテーション医療について説明できる。 ⑤ その他の治療について説明できる。 ⑥ 中枢神経の障害の一般的疾患について説明できる。					
授業計画						
1	神経内科学総論					
2	脳、神経系について					
3	大脳の部位と働き、局在性とネットワーク					
4	意識、脳神経の診かた					
5	運動、感覚の診かた					
6	運動、感覚、腱反射、失調					
7	運動、感覚、腱反射、失調					
8	失語、失認、失行					
9	失語、失認、失行					
10	神経内科学検査					
11	脳血管障害					
12	脳血管障害					
13	認知症					
14	認知症					
15	まとめ					
教科書 参考書	① ベッドサイドの神経の診かた ② 病気がみえる vol.7 脳・神経					
授業方法	講義、板書					
使用機材	ビデオ、DVDも時に使用					
成績評価	試験					
留意点						

科目区分	教育内容	科目名		単位	学年	時期
専門分野	基礎作業療法学	基礎作業学Ⅱ(作業分析)		2	2	前期
担当教員	川上 絃司 福代 大輔	実務経験	作業療法士として業務に従事			
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・作業遂行における必要な機能とは何かを理解する ・作業療法で治療の手段・目的として用いる作業とは何かを考える 					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 作業について説明できる。 ② 作業と運動生理機能との関係について説明できる。 ③ 作業と心理機能との関係について説明できる。 ④ ライフステージと作業について説明できる。 ⑤ 作業分析について説明できる。 ⑥ 代表的な作業についての手順が説明できる。 ⑦ 代表的な作業の指導ができる。 ⑧ 代表的な作業の作業分析ができる。 					
授業計画						
1	作業分析について①				福代 大輔	
2	作業分析について②				福代 大輔	
3	作業分析について③				川上 絃司	
4	作業分析について④				川上 絃司	
5	作業分析 銅板細工				福代 大輔	
6	作業分析 銅板細工				福代 大輔	
7	作業分析 銅板細工				福代 大輔	
8	作業分析 銅板細工				福代 大輔	
9	作業分析 タイルモザイク				川上 絃司	
10	作業分析 タイルモザイク				川上 絃司	
11	作業分析 タイルモザイク				川上 絃司	
12	作業分析 タイルモザイク				川上 絃司	
13	演習まとめ①				川上 絃司	
14	演習まとめ②				福代 大輔	
15	発表				福代 大輔	
教科書 参考書	作業療法学 ゴールド・マスターテキスト 改訂第2版 作業学、配布資料					
授業方法	講義、演習					
使用機材	パソコン、プロジェクター					
成績評価	定期試験、レポート課題					
留意点						

科目区分	教育内容	科目名		単位	学年	時期
専門分野	基礎作業療法学	評価セミナー		2	2	前期
担当教員	小林成人、片山優子、川上紘司、福代大輔、石倉健一、小原、謙治	実務経験	作業療法士として業務に従事			
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ● 作業療法で実際に用いられる作業種目を経験し、基礎技術を学習する。 ● 作業における運動機能、知覚、認知機能、交流・コミュニケーション、リスク管理等から、心身に対する治療意義を考察する。 					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 対象者の疾患に関する一般的特徴(症状・障害)について説明することができる。 ② 対象者に必要な評価手段(情報収集・面接・観察・検査測定)を選択できる。 ③ 選択した評価手段の目的を説明できる。 ④ 選択した評価手段の方法を説明できる。 ⑤ 評価結果をICF(心身機能・活動・参加・環境因子・個人因子)に分類できる。 ⑥ 評価結果の肯定的側面・否定的側面について説明できる。 ⑦ 評価結果の相互(因果)関係を ICF を用いて説明できる。 					
授業計画						
1	オリエンテーション 講義①情報収集の必要性、情報の種類、疾病について					小林 成人
2	講義②個人的背景について					小林 成人
3	講義③人的環境について					小林 成人
4	講義④物理的環境について					小林 成人
5	演習①観察について					片山 優子
6	演習②面接について					片山 優子
7	演習③観察・面接・記録について					片山 優子
8	評価計画立案① 情報のまとめ方について					全教員
9	評価計画立案②					全教員
10	評価計画立案③					全教員
11	ICF 分類①					全教員
12	ICF 分類②					全教員
13	ICF 分類③					全教員
14	発表①					全教員
15	発表② まとめ					全教員
教科書 参考書	PTOT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学 「精神疾患の理解と精神科作業療法 第2版」:朝田隆 他;中央法規 「まるごと図解 ケアにつながる脳の見かた」 その他、必要と考えられる教科書					
授業方法	講義、演習					
使用機材	パソコン、プロジェクター					
成績評価	定期試験 30%、個人レポート 35%、グループレポート 30%、発表 5%					
留意点	評価セミナーは作業療法の基本的技術である面接・観察を重点的に授業を行っていきます。 面接技術や観察については、ポイントを押さえて学び、また自分自身だけの理解だけでなく、 グループワークを通じて他者の見解を知ることが大事になってきます。多くの意見を取り入れるよ うディスカッションを積極的に行いましょう。					

科目区分	教育内容	科目名		単位	学年	時期
専門分野	作業療法評価学	作業療法評価法Ⅲ		2	2	前期
担当教員	小原謙治、 小林成人	実務経験	作業療法士として業務に従事			
内 容	<p>評価は患者様を把握し、リハビリテーションプログラムを立案するうえで礎となる技術である。療法士は評価をもとに症状や障害を理解し、それらの情報を分析し、治療プログラムを立案する。また、立案した治療が適切で効果的であったかを再評価によって判定を行い、プログラムの変更や今後の方針予後などを予測する上で重要である。本講では正確に評価できるための基本的な知識・技術を実施し、結果を判定できることを目的とする。</p>					
到達目標	<p>① 脳神経検査について、説明・模擬実施ができる。 ② 協調性検査について、説明・模擬実施ができる。 ③ 片麻痺運動機能検査について、説明・模擬実施ができる。 ④ 静的姿勢の観察について、説明・模擬実施ができる。 ⑤ 筋緊張検査について、説明・模擬実施ができる。 ⑥ 姿勢反射検査について、説明・模擬実施ができる。 ⑦ 動的姿勢の観察、バランス評価について、説明・模擬実施ができる。</p>					
授業計画						
1	脳神経検査①				小林	成人
2	脳神経検査②				小林	成人
3	脳神経検査③				小林	成人
4	協調性の評価について				小林	成人
5	片麻痺運動機能検査①				小林	成人
6	片麻痺運動機能検査②				小林	成人
7	片麻痺運動機能検査③				小林	成人
8	静的姿勢の観察①				小原	謙治
9	静的姿勢の観察②				小原	謙治
10	姿勢筋緊張・筋緊張検査について①				小原	謙治
11	筋緊張検査について②				小原	謙治
12	姿勢反射検査について(脊髄・脳幹・中脳レベル)				小原	謙治
13	動的姿勢の観察・バランス機能の評価について①				小原	謙治
14	動的姿勢の観察・バランス機能の評価について②				小原	謙治
15	動的姿勢の観察・バランス機能の評価について③				小原	謙治
教科書 参考書	PTOT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学 ベッドサイドの神経の診かた 動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学					
授業方法	講義、実技					
使用機材	パソコン、プロジェクター					
成績評価	定期試験 100%					
留意点						

科目区分	教育内容	科目名		単位	学年	時期
専門分野	作業療法評価学	作業療法評価法Ⅳ(疾患別)		2	2	後期
担当教員	石倉 健一・川上 紘司・ 片山 優子・福代 大輔・ 鮫島 一雄	実務経験	作業療法士として業務に従事			
内 容	1.作業療法理論をふまえながら作業療法の目的や進むべき方向を考える。 2.疾患や障害にとらわれず対象者の個人因子や環境を踏まえた個別的な評価方法を考える。 3.目的を持った情報収集、評価項目の列挙や最大目標の設定ができること。					
到達目標	①粗大運動・上肢機能の発達過程について理解し、評価ができる。 ②感覚・認知機能の発達について理解し、評価ができる。 ③対象者の状態に即した評価スケールを列挙し、方法を実施することができる。					
授業計画						
1	オリエンテーション、発達障害分野における評価①(評価項目、検査方法、記録)				石倉 健一	
2	発達障害分野における評価②(粗大運動・上肢機能)				石倉 健一	
3	発達障害分野における評価③(感覚・認知機能・視知覚機能)				石倉 健一	
4	認知機能とは 認知機能評価(遠城寺式発達検査)				鮫島 一雄	
5	認知機能とは 認知機能評価(感覚統合、デンバー)				鮫島 一雄	
6	認知機能とは 認知機能評価(コース立方体組み合わせテスト)				川上 紘司	
7	身体障害領域①バイタルサインについて、血圧測定				川上 紘司	
8	身体障害領域②呼吸・脈・体温				川上 紘司	
9	上肢機能評価① 簡易上肢機能検査(STEF)測定				福代 大輔	
10	上肢機能評価② 簡易上肢機能検査(STEF)結果分析				福代 大輔・	
11	老年期障害分野における評価① 認知症の評価(質問式)				川上 紘司	
12	老年期障害分野における評価② 認知症の評価(行動観察式)				川上 紘司	
13	カナダ作業遂行モデル(CMOP)とカナダ作業遂行測定(COPM)について				片山 優子	
14	症例提示とCOPMの実際				片山 優子	
15	COPM実施後の症例検討とまとめ				片山 優子	
教科書 参考書	身体障害分野、老年期障害分野、発達障害分野の評価、疾患理解に必要なと思われる教科書を各自準備すること。					
授業方法	講義、演習、実技					
使用機材	パソコン、プロジェクター					
成績評価	定期試験 100%					
留 意 点	<p>身障・老年期分野： CMOPをふまえた総合的な評価を基本とします。人が作業を遂行する上で必要な評価方法について考えていきます。身障分野の達成目標として、作業療法士の専門性をふまえた評価実践のために何が必要かを考えていきます。</p> <p>発達障害分野： 作業療法治療学8(発達障害)で学んだ評価項目に対して具体的な評価方法、検査結果の解釈の仕方を学び、疾患特性に応じて、評価を選択・実施、記録、レポート記載が出来ることを目指します。</p>					

科目区分	教育内容	科目名		単位	学年	時期
専門分野	作業治療学	作業療法治療学1 (脳血管障害総論)		2	2	前期
担当教員	福代 大輔	実務経験	作業療法士として身体障害分野の臨床経験あり。			
内 容	脳血管障害は、作業療法の重要な対象となっている。 本講義では、脳卒中の病態や障害像を理解し、作業療法の実践を行うための基本的な知識と介入に必要な考え方を習得する。					
到達目標	神経系の構造と機能について説明できる。 脳血管と脳の支配領域について説明できる。 脳血管障害の病態や障害像について説明できる。 脳血管障害の予後について説明できる。					
授業計画						
1	神経系の構造と機能①				福代 大輔	
2	神経系の構造と機能②				福代 大輔	
3	神経系の構造と機能③				福代 大輔	
4	神経系の構造と機能④				福代 大輔	
5	脳血管と支配領域①				福代 大輔	
6	脳血管と支配領域②				福代 大輔	
7	脳梗塞とは				福代 大輔	
8	アテローム血栓性脳梗塞、心原性脳梗塞				福代 大輔	
9	ラクナ梗塞、一過性脳虚血発作				福代 大輔	
10	Wallenberg 症候群、頸動脈狭窄症、小脳梗塞				福代 大輔	
11	脳出血とは				福代 大輔	
12	被殻出血、視床出血、脳幹出血、小脳出血				福代 大輔	
13	皮質下出血、脳動脈瘤、くも膜下出血				福代 大輔	
14	脳動静脈奇形、もやもや病				福代 大輔	
15	脳画像の読み方				福代 大輔	
教科書 参考書	教科書:病気が見える7 脳・神経 参考書:リハ実践テクニック 脳卒中					
授業方法	講義、演習					
使用機材	パソコン、プロジェクター、脳模型					
成績評価	定期試験 100%					
留意点						

科目区分	教育内容	科目名		単位	学年	時期
専門分野	作業治療学	作業療法治療学2 (脳血管障害各論)		2	2	後期
担当教員	福代 大輔	実務経験	作業療法士として身体障害分野の臨床経験あり。			
内 容	<p>脳血管疾患後の片麻痺患者に対する作業療法に必要な脳科学の基礎知識や予後予測する必要性について学ぶ。</p> <p>基本動作訓練と ADL 動作の繋がりや上肢機能訓練と ADL 動作の繋がりについて、必要に応じて実技を行い学びを深める。</p>					
到達目標	<p>他職種連携の必要性について説明できる。</p> <p>運動学習を考慮した訓練内容を模擬実施できる。</p> <p>生活障害の改善との繋がりを考慮した訓練内容を模擬実施できる。</p>					
授業計画						
1	脳科学をリハビリへ①				福代 大輔	
2	脳科学をリハビリへ②、予後予測し目標設定する必要性①				福代 大輔	
3	予後予測し目標設定する必要性②				福代 大輔	
4	急性期・回復期における作業療法士の役割と他職種連携の必要性①				福代 大輔	
5	急性期・回復期における作業療法士の役割と他職種連携の必要性②、 片麻痺の ROMex				福代 大輔	
6	片麻痺の ROMex、片麻痺の寝返りから起き上がり ～ADL 動作との繋がりを考える～				福代 大輔	
7	片麻痺の座位(静的・動的) 評価と訓練の繋がり① ～ADL 動作との繋がりを考える～				福代 大輔	
8	片麻痺の座位(静的・動的) 評価と訓練の繋がり② ～ADL 動作との繋がりを考える～				福代 大輔	
9	片麻痺の立ち上がり、立位バランス				福代 大輔	
10	片麻痺の立位バランス ～ADL 動作との繋がりを考える～				福代 大輔	
11	片麻痺の上肢に対する訓練 評価と訓練の繋がり ～ADL 動作との繋がりを考える～				福代 大輔	
12	片麻痺の上肢に対する訓練 評価と訓練の繋がり ～ADL 動作との繋がりを考える～				福代 大輔	
13	片麻痺の手指に対する訓練 評価と訓練の繋がり ～ADL 動作との繋がりを考える～				福代 大輔	
14	片麻痺の手指に対する訓練 評価と訓練の繋がり ～ADL 動作との繋がりを考える～				福代 大輔	
15	まとめ				福代 大輔	
教科書 参考書	教科書:リハ実践テクニック 脳卒中、エガース・片麻痺の作業療法、脳卒中機能評価・予後予測マニュアル					
授業方法	講義、演習					
使用機材	パソコン、プロジェクター、脳模型					
成績評価	定期試験 100%					
留意点						

科目区分	教育内容	科目名		単位	学年	時期
専門分野	作業治療学	作業療法治療学3 (高次脳機能障害)		2	2	前期
担当教員	小林 成人	実務経験	作業療法士として業務に従事			
内 容	脳疾患や脳外傷などに起因する高次脳機能障害について、神経解剖や神経機能を復習しながら、症候や障害像をまとめ、評価や介入の方法について学習する。また、演習を通してアプローチについて学ぶ。					
到達目標	① 障害特性について説明できる。 ② 障害ごとの予後について説明できる。 ③ 障害ごとの作業療法について説明・模擬実践できる。 意識・情動の障害、注意の障害、記憶の障害、認知の障害、言語の障害 思考の障害、行為の障害、遂行機能の障害					
授業計画						
1	高次脳障害の基礎知識、高次脳障害の脳の障害部位と症状					
2	失語症とは、分類と症状、病巣					
3	失語症の評価(スクリーニング、診断的検査、治療的介入)					
4	失行①概念と病巣、検査と評価・評価結果の解釈					
5	失行②治療的介入					
6	注意障害①概念と病巣、分類検査					
7	注意障害②評価治療的介入					
8	失認①概念、障害と病巣					
9	失認②検査と評価					
10	失認③治療的介入					
11	半側空間無視①(方向性注意障害)①概念と病巣、検査と評価、治療的介入					
12	半側空間無視②治療的介入					
13	前頭葉症状、遂行機能障害、記憶障害①概念と病巣、検査と評価、治療的介入					
14	前頭葉症状、遂行機能障害、記憶障害②治療的介入					
15	患者・家族支援(社会資源の利用について)					
教科書 参考書	教科書: 標準作業療法学 高次脳機能作業療法学 まるごと図解 ケアにつながる脳の見方 参考書: 生活を支える高次脳機能リハビリテーション					
授業方法	講義、演習					
使用機材	パソコン、プロジェクター、脳模型					
成績評価	定期試験と提出課題を総合して判断					
留意点						

科目区分	教育内容	科目名	単位	学年	時期
専門分野	作業治療学	作業療法治療学4 (整形疾患)	2	2	後期
担当教員	黒田 泰介 永瀬 陽大	実務経験	作業療法士として身体障害分野での臨床経験あり		
内 容	整形外科疾患における作業療法士の評価・治療について、本講義で学ぶ				
到達目標	① 疾患ごとの生活障害の特性について説明できる。 ② 疾患ごとの予後について説明できる。 ③ 治療原理について説明できる。 関節可動域の拡大、筋力の維持・増強、感覚・知覚再教育、物理療法の基礎 ④ 疾患ごとの作業療法について説明・模擬実践できる。 脊髄損傷、末梢神経損傷、関節リウマチ、骨関節疾患、手外科、熱傷				
授業計画				担 当	
1	オリエンテーション			黒田 泰介	
2	頰椎症			黒田 泰介	
3	腱板損傷			黒田 泰介	
4	腱板損傷(治療)			黒田 泰介	
5	手の外科(評価①)			黒田 泰介	
6	手の外科(評価②)			黒田 泰介	
7	手の外科(骨折)			黒田 泰介	
8	手の外科(腱損傷)			黒田 泰介	
9	手の外科(末梢神経損傷)			永瀬 陽大	
10	手の外科(治療)			永瀬 陽大	
11	リウマチ			永瀬 陽大	
12	リウマチ			永瀬 陽大	
13	脊髄損傷			永瀬 陽大	
14	脊髄損傷			永瀬 陽大	
15	テスト対策			永瀬 陽大	
教科書 参考書	教科書：作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 4 身体障害作業療法学 第2版 / メジカルビュー社 参考書：病気がみえる⑪ 運動器・整形外科 / メディックメディア				
授業方法	講義、必要に応じて実技				
使用機材	パソコン、プロジェクター				
成績評価	定期試験(100%)				
留 意 点					

科目区分	教育内容	科目名		単位	学年	時期
専門分野	作業治療学	作業療法治療学5 (神経筋疾患)		2	2	前期
担当教員	森脇 繁登	実務経験	作業療法士として身体障害分野での臨床経験あり			
内 容	<p>神経筋疾患の多くは厚生労働省の定める特定疾患、いわゆる神経難病である。 本講義は、作業療法士が関わることの多いパーキンソン病をはじめ脊髄小脳変性症、 筋萎縮性側索硬化症、末梢神経障害を中心に、疾病構造、障害構造を学習していく。 さらに、各疾患の評価や実践を知ることによって作業療法の重要性を理解していく。</p>					
到達目標	<p>① 疾患ごとの生活障害の特性について説明できる。 ② 疾患ごとの予後について説明できる。 ③ 治療原理について説明できる。 ④ 疾患ごとの作業療法について説明・模擬実践できる。 神経変性疾患(パーキンソン病、ALS、脊髄小脳変性症等) 神経筋疾患(MS、ギランバレー症候群、重症筋無力症等)</p>					
授業計画						
1	神経筋疾患概論					
2	パーキンソン病の病態生理					
3	パーキンソン病の評価・治療					
4	パーキンソン病の作業療法					
5	脊髄小脳変性症の病態生理					
6	脊髄小脳変性症の評価・治療					
7	脊髄小脳変性症の作業療法					
8	筋萎縮性側索硬化症の病態生理					
9	筋萎縮性側索硬化症の病態生理評価・治療					
10	筋萎縮性側索硬化症の作業療法					
11	末梢神経障害とその他(ギランバレー症候群、多発性硬化症など)					
12	末梢神経障害とその他の評価と治療					
13	意思伝達演習					
14	スイッチ作成演習					
15	まとめ					
教科書 参考書	<p>① 標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 ② 神経難病リハビリテーション 100 の叢智</p>					
授業方法	講義、演習					
使用機材	パソコン、プロジェクター					
成績評価	定期試験 70%、提出物(課題・レポート)30%					
留意点	適宜、テーマを指定してレポートを提出してもらいます。					

科目区分	教育内容	科目名		単位	学年	時期
専門分野	作業治療学	作業療法治療学 6 (老年期障害)		2	2	前期
担当教員	川上 紘司	実務経験	老年期分野での実務経験あり			
内 容	<p>高齢期における対象者の心身機能の変化や、それに伴って起こる生活上の動作や行動、行為への援助方法について学習する。</p> <p>高齢社会といわれるわが国の状況を把握し、障害を持つ高齢者及び現在健康である高齢者への関わりを含めて作業療法がどうあるべきか、また実際について学ぶ。</p>					
到達目標	<p>① 障害特性について説明できる。</p> <p>② 障害ごとの作業療法について説明・模擬実践できる。</p> <p>健康高齢者 虚弱高齢者 身体障害を持った高齢者 精神障害を持った高齢者 認知症</p>					
授業計画						
1	高齢社会、高齢期の課題					
2	社会制度、高齢期の作業療法					
3	高齢期の特徴					
4	高齢期に多い疾患①					
5	高齢期に多い疾患②					
6	高齢期のリスク					
7	認知症①					
8	認知症②					
9	作業療法実践の基礎的枠組み					
10	一般高齢者の作業療法					
11	認知症高齢者の作業療法①					
12	認知症高齢者の作業療法②					
13	介護老人保健施設の作業療法					
14	地域在宅支援の作業療法					
15	まとめ					
教科書、参考書	標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学 第2版 クリニカル作業療法シリーズ 高齢期領域の作業療法 第2版 プログラム立案のポイント					
授業方法	講義、グループワーク、その他					
使用機材	パソコン、プロジェクター、レーザーポインター					
成績評価	定期試験 100%					
留 意 点						

科目区分	教育内容	科目名	単位	学年	時期
専門分野	作業治療学	作業療法治療学7 (呼吸・循環)	2	2	後期
担当教員	平野 正樹 石倉 健一 看護学科教員	実務経験	オムニバス形式で臨床経験のある教員が行う		
内 容	<p>呼吸器疾患、循環器疾患について、講義を通して各疾患別に関する疾患特性について理解を深める。</p> <p>疾患ごとの作業療法について、講義・実技を通して、理解解を深め、訓練方法や ADL 指導のポイントについて学ぶ。</p> <p>また、臨床現場で必要となる喀痰吸引について、看護師より講義(一部実技)を受ける。</p>				
到達目標	<p>① 呼吸器疾患と循環器疾患の疾患特性について説明できる。</p> <p>② 評価・検査(画像・生理検査含む)、診断について説明できる。</p> <p>③ 疾患ごとの生活障害の特性について説明できる。</p> <p>④ 疾患ごとの予後について説明できる。</p> <p>⑤ 疾患ごとの作業療法について、説明・模擬実施できる。</p> <p>⑥ 喀痰吸引について、説明・模擬実施できる。</p>				
授業計画					
1	呼吸ケアのための基礎知識				平野 正樹
2	呼吸理学療法				平野 正樹
3	呼吸理学療法				平野 正樹
4	作業療法士が行う呼吸リハビリテーション				平野 正樹
5	作業療法士が行う呼吸ケアの実際				平野 正樹
6	作業療法士が行う呼吸ケアの実際				平野 正樹
7	心臓リハビリテーションに必要な循環器系の構造と理解				石倉 健一
8	心臓リハビリテーションの概要				石倉 健一
9	虚血性心疾患における作業療法(評価・治療)①				石倉 健一
10	虚血性心疾患における作業療法(評価・治療)②				石倉 健一
11	心不全における作業療法(評価・治療)①				石倉 健一
12	心不全における作業療法(評価・治療)②				石倉 健一
13	心臓手術後、大動脈疾患・末梢動脈疾患の作業療法(評価・治療)				石倉 健一
14	喀痰吸引について①				看護学科教員
15	喀痰吸引について②				看護学科教員
教科書 参考書	<p>(教科書)①作業療法士のための呼吸ケアとリハビリテーション眼でみる実践 ②心臓リハビリテーション</p> <p>(参考書)①カラー人体解剖学 ②標準理学療法学作業療法学・生理学</p>				
授業方法	講義、必要に応じて実技				
使用機材	パソコン、プロジェクター、呼吸器模型、心臓模型				
成績評価	定期試験(100%)				
留意点					

科目区分	教育内容	科目名		単位	学年	時期
専門分野	作業治療学	作業療法治療学8 (発達障害)		2	2	前期
担当教員	石飛 優	実務経験	作業療法士として発達障害分野での臨床経験あり			
内 容	<p>発達障害領域の作業療法実践課程を理解する。 発達障害領域の主な対象となる疾患特性を理解し、疾患特性に応じた評価選択・評価計画の立案ができる。 疾患特性・作業療法評価ポイントを理解し、介入すべき点を考えることができる。</p>					
到達目標	<p>① 疾患ごとの生活障害の特性について説明できる。 ② 疾患ごとの予後について説明できる。 ③ 疾患ごとの評価と作業療法について説明・模擬実践できる。 新生児疾患、脳性まひ、知的障害、筋ジストロフィー、重症心身障害 腕神経叢麻痺、二分脊椎症、自閉スペクトラム、学習障害、注意欠如多動症 他</p>					
授業計画						
1	発達期における作業療法・作業療法士の関わりについて					
2	知的障害					
3	神経筋疾患:筋ジストロフィー					
4	腕神経叢麻痺、二分脊椎、新生児疾患(NICU 対象児)、情緒障害					
5	脳性麻痺					
6	重症心身障害児者					
7	脳性麻痺・重症心身障害児者への介入					
8	感覚統合評価					
9	感覚統合療法					
10	自閉症スペクトラム					
11	注意欠如多動症(ADHD)・発達性協調運動障害					
12	学習障害					
13	事例検討:グループワーク					
14	発表					
15	発表・まとめ					
教科書 参考書	教科書:標準作業療法学 専門分野 発達過程作業療法学 第2版 参考書:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 人間発達学					
授業方法	講義、グループワーク、演習					
使用機材	パソコン、プロジェクター、配布資料、必要時にスピーカー					
成績評価	定期試験 100%					
留意点						

科目区分	教育内容	科目名		単位	学年	時期
専門分野	作業治療学	作業療法治療学 10 (精神疾患総論)		4	2	前期
担当教員	津田 宏太郎 片山 優子	実務経験	精神科作業療法分野で実務経験のある教員が講義を行う。			
内 容	精神科における対象疾患の基礎知識、それに対する作業療法の実践について講義、演習を通して理解を深める。 また、精神科作業療法における評価や集団作業療法について、講義、演習を通して学ぶ。					
到達目標	精神科作業療法の進め方について説明できる。 疾患ごとの生活障害の特性について説明できる。 疾患ごとの予後について説明できる。 疾患ごとの作業療法について説明・模擬実践できる。					
授業計画						
津田 宏太郎			片山 優子			
1	精神の病とは、処遇と歴史	1	自己の治療的活用、作業・作業活動の用い方			
2	精神科作業療法の進め方(情報収集、面接)	2	集団・場、ひとと集団			
3	精神科作業療法の進め方(観察、検査)	3	生活技能と集団/集団の利用			
4	精神科作業療法の進め方(計画立案・実施)	4	パラレルな場とその利用			
5	精神障害の基礎知識①	5	作業療法と集団・場			
6	精神障害の基礎知識②	6	集団プログラムの計画と評価①			
7	精神薬理学①	7	集団プログラムの計画と評価②			
8	精神薬理学②	8	作業療法における集団プログラムの実際①			
9	統合失調症の理解(概念、症状、分類)	9	作業療法における集団プログラムの実際②			
10	統合失調症の理解(病因、経過、予後)	10	気分障害の理解①			
11	統合失調症の作業療法(急性期)	11	気分障害の理解②			
12	統合失調症の作業療法(回復前期)	12	気分障害に対する作業療法の展開①			
13	統合失調症の作業療法(回復後期)	13	気分障害に対する作業療法の展開②			
14	統合失調症の作業療法(維持期)	14	気分障害に対する作業療法の展開③			
15	統合失調症の作業療法(維持期～終末期)	15	気分障害に対する作業療法の展開④			
教科書 参考書	精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版 精神障害と作業療法 新版 ひとと集団・場ーひとの集まりと場を利用する					
授業方法	講義・演習					
使用機材	パソコン、プロジェクター、配布資料					
成績評価	定期試験(津田 50%、片山 50%)					
留意点	復習は必ず行うこと。適宜、小テストを行います。					

科目区分	教育内容	科目名		単位	学年	時期
専門分野	作業治療学	作業療法治療学 11 (精神疾患各論)		4	2	後期
担当教員	津田 宏太郎、片山 優子	実務経験	精神科作業療法分野での実務経験のある教員が講義を行う。			
内 容	精神科における対象疾患の基礎知識、それに対する作業療法の実践について講義、演習を通して理解を深める。 また、精神科作業療法における評価や集団作業療法について、講義、演習を通して学ぶ。					
到達目標	精神科作業療法の進め方について説明できる。 疾患ごとの生活障害の特性について説明できる。 疾患ごとの予後について説明できる。 疾患ごとの作業療法について説明・模擬実践できる。					
授業計画						
津田 宏太郎			片山 優子			
1	神経症の理解(定義・分類の理解)	1	オリエンテーション	2	境界性パーソナリティ障害の理解	
2	パニック障害の理解と作業療法	2	境界性パーソナリティ障害の作業療法①	3	境界性パーソナリティ障害の作業療法②	
3	解離性(転換性)障害の理解と作業療法	3	境界性パーソナリティ障害の作業療法③	4	摂食障害の理解	
4	強迫性障害の理解と作業療法	4	摂食障害の作業療法①	5	摂食障害の作業療法②	
5	神経症の作業療法の実際	5	摂食障害の作業療法③	6	地域生活支援と作業療法①	
6	依存症の理解①(診断基準・分類・病因)	6	地域生活支援と作業療法②	7	地域生活支援と作業療法③	
7	依存症の理解②(治療・経過・予後)	7	医療観察制度と作業療法	8	精神科作業療法の理論・モデル①	
8	アルコール依存症に対する作業療法①	8	精神科作業療法の理論・モデル②	9	精神科作業療法の関連療法	
9	アルコール依存症に対する作業療法②	9				
10	薬物依存症に対する作業療法①	10				
11	薬物依存症に対する作業療法②	11				
12	依存症の作業療法の実際	12				
13	精神遅滞の理解と作業療法の支援	13				
14	発達障害の理解と作業療法の支援	14				
15	生活技能訓練(SST)について(演習)	15				
教科書 参考書	精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版 精神障害と作業療法 新版 ひとと集団・場ーひとの集まりと場を利用する					
授業方法	講義・演習					
使用機材	パソコン、プロジェクター、配布資料					
成績評価	定期試験(100%)					
留意点	復習を必ず行うこと。適宜小テストを行います。					

科目区分	教育内容	科目名		単位	学年	時期
専門分野	作業治療学	義肢装具学		2	2	前期
担当教員	内田 賢 小原 謙治	実務経験	理学療法士としての業務に従事 作業療法士として業務に従事			
内 容	義肢装具は、人々の生活を機器で代用する適合技術である。そして、物理学や運動学の原理、材質が基礎にあり、種々のものが研究、開発されている。義肢装具の基本的知識を中心に学習し、作業療法との関連を含めて理解を深める。					
到達目標	① 義肢装具に関わる作業療法士の役割について説明できる。 ② 上肢切断について説明できる。 ③ 義手の基本構造について説明できる。 ④ 義手の適合判定について説明できる。 ⑤ 筋電義手について説明できる。 ⑥ 下肢切断・義足について説明できる。 ⑦ 上肢装具について説明できる。 ⑧ スプリントについて説明・作成できる。 ⑨ 下肢装具について説明できる。 ⑩ 頸椎体幹装具について説明できる。 ⑪ 疾患ごとの装具について説明できる。					
授業計画						
1	総論:義肢とは、装具とは					
2	切断の疫学、上肢切断の特徴					
3	義手の構成部品					
4	切断レベルに応じた義手の分類と処方					
5	義手のチェックアウト					
6	筋電義手について					
7	義足について					
8	装具総論:定義・分類					
9	下肢装具1					
10	体幹装具					
11	疾患ごとの装具について					
12	まとめ					
13	スプリント・上肢の補装具について①					
14	スプリント・上肢の補装具について②					
15	スプリント・上肢の補装具について③					
教科書 参考書	教科書:「義肢学」石川 朗 編集 中山書店 「装具学」石川 朗 編集 中山書店 参考書:「切断と義肢」澤村誠志著 医歯薬出版 第2版 「装具治療マニュアル」加倉井 周一 医歯薬出版 「義肢・装具学」高田治実 羊土社					
授業方法	講義					
使用機材	適宜					
成績評価	定期試験(80%)、小テスト(20%)					
留意点	毎回、前回の講義内容について小テストを行い理解度をチェックします。 内容は非常に多岐にわたります。授業では、基本的なことを学習しますが、教科書以外の本も参考に自主学習にも励んでください。 運動学の知識が要求されますので、歩行を含めた運動学の再確認をしておいてください。 義肢・装具は常に新しい技術が開発されており、自分から情報収集し、できれば装着して体感することも大事です。 義肢・装具の作成に当たっては、医師、OT、義肢装具士との連携が重要です。					

科目区分	教育内容	科目名		単位	学年	時期
専門分野	地域作業治療学	生活環境論		2	2	後期
担当教員	北山 朋宏	実務経験	作業療法士として錦海リハビリテーション病院等での臨床経験あり			
内 容	<p>障害者の生活環境を、生活の変化に伴う環境の変遷やライフサイクル、経済環境、行政・制度的環境など多様な側面から捉え、生涯生活環境とリハビリテーションの過程の関係を考慮し、リハビリテーション従事者としての役割や関わり方について学ぶ。主に住宅改造について学ぶ。</p> <p>1)住宅改造における作業療法士の役割が理解できる 2)住宅改造を助言、指導するときの留意点があげられる 3)住宅改造に必要な図面を理解したり、簡単な図が描けることを目標にする。またノーマライゼーションや地域リハビリテーションの理念についても学ぶ。</p>					
到達目標	<p>① 建築の基礎について説明できる。</p> <p>② 住宅改修の基礎技術について説明できる。</p> <p>③ 福祉用具供給システムについて説明できる。</p> <p>④ 福祉用具のアセスメントについて説明できる。</p> <p>⑤ 福祉用具の安全性について説明できる。</p> <p>⑥ 主たる福祉用具について体験し、適用や選定ができる。</p>					
授業計画						
1	作業療法と環境整備					
2	住宅の機能 建築の基礎知識					
3	住宅改造の概念、住宅改造の必要性、住宅改造と作業療法士のかかわり方					
4	住宅改造の考え方と工夫、基本的検討事項					
5	住宅改造の進め方					
6	住宅改造の検討事項					
7	住宅改造の検討事項(玄関・トイレ・入浴動作についての演習)					
8	住宅改造の検討事項(玄関・トイレ・入浴動作についての演習)					
9	障害別住宅改造の留意点(頸髄損傷)					
10	障害別住宅改造の留意点(脳血管障害)					
11	障害別住宅改造の留意点(関節リウマチ、その他)					
12	図面の作成(個別)					
13	図面の作成(グループワーク)					
14	図面の作成(グループワーク)					
15	グループワーク発表					
教科書 参考書	作業療法学全書 作業療法技術学 2 福祉用具の使い方、住環境整備					
授業方法	講義・ディスカッション・演習					
使用機材	パソコン・ビデオ					
成績評価	テストの成績、授業態度、ディスカッション等の発表内容					
留 意 点	生活を見る上では大切な内容が多く含まれていると思います。					

科目区分	教育内容	科目名		単位	学年	時期
専門分野	臨床実習	評価実習		2	2	後期
担当教員	川上 紘司	実務経験	作業療法士として業務に従事			
内 容	15 日間の評価実習を実施する。 実習終了後に症例報告を通して、臨床思考過程の理解状況を確認する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 作業療法士としての倫理観や基本的態度を身につける。 ② 作業療法評価計画の立案ができる。 ③ 作業療法評価の実施ができる。 ④ 評価結果を整理し、全体像を把握することができる。 ⑤ 対象者に合わせた目標を考えることができる。 ⑥ 対象者に合わせた治療プログラムを立案することができる。 					
授業計画						
実施期間	15 日間					
実施施設	身体障害および老年期障害対象の医療提供施設					
実施内容	対象者の評価から治療計画の立案までの臨床思考過程を実践する。					
教科書 参考書	なし					
授業方法	実習、発表					
使用機材	なし					
成績評価	臨床実習地評価と学校評価(症例報告)を総合し、判定する。					
留 意 点	<p>各実習における実習時間は、評価実習(2 単位:135 時間)とする。</p> <p>※ その他の事項および実習の詳細については、別途配布する「臨床実習の手引き」による。</p>					

科目区分	教育内容	科目名		単位	学年	時期
専門分野	臨床実習	臨床実習		20	2 3	後期 通年
担当教員	川上 紘司	実務経験	作業療法士として業務に従事			
内 容	2年次:10日間の臨床実習を実施する。 3年次:Ⅰ期臨床実習 46日間(身体障害分野または精神障害分野)、Ⅱ期臨床実習 44日間(身体障害分野または精神障害分野)2分野を実施する。 実習終了後に症例報告を通して、臨床思考過程の理解状況を確認する。					
到達目標	①作業療法士としての倫理観や基本的態度を身につける。 ②作業療法評価計画の立案ができる。 ③作業療法評価の実施ができる。 ④評価結果を整理し、全体像を把握することができる。 ⑤対象者に合わせた目標を考えることができる。 ⑥対象者に合わせた治療プログラムを立案することができる。 ⑦対象者の状況合わせた治療場面を選択することができる。 ⑧対象者に合わせて治療プログラムを実施できる。					
授業計画						
2年次	臨床実習 期間:10日間 実習施設:身体障害および老年期障害対象の医療提供施設 対象者の評価から治療計画の立案までの臨床思考過程を実践する。					
3年次	Ⅰ期臨床実習:期間(46日間) 実習施設:身体障害分野または精神障害分野の病院または診療所 対象者の評価から治療実施、再評価までの臨床思考過程を実践する。 Ⅱ期臨床実習:期間(44日間) 実習施設:身体障害分野または精神障害分野の病院または診療所 対象者の評価から治療実施までの臨床思考過程を実践する。					
教科書 参考書	なし					
授業方法	実習、症例報告					
使用機材	なし					
成績評価	臨床実習地評価と学校評価(症例報告)を総合し、判定する。					
留 意 点	各実習における実習時間は以下の通りとする。 2年次臨床実習(2単位:90時間) 3年次臨床実習(18単位:810時間) Ⅰ期臨床実習(身体障害分野または精神障害分野) 実習地 414時間 Ⅱ期臨床実習(身体障害または精神障害分野) 実習地 396時間 <div style="text-align: right;"><u>合計 20 単位:900 時間</u></div> ※ その他の事項および実習の詳細については、別途配布する「臨床実習の手引き」による。					